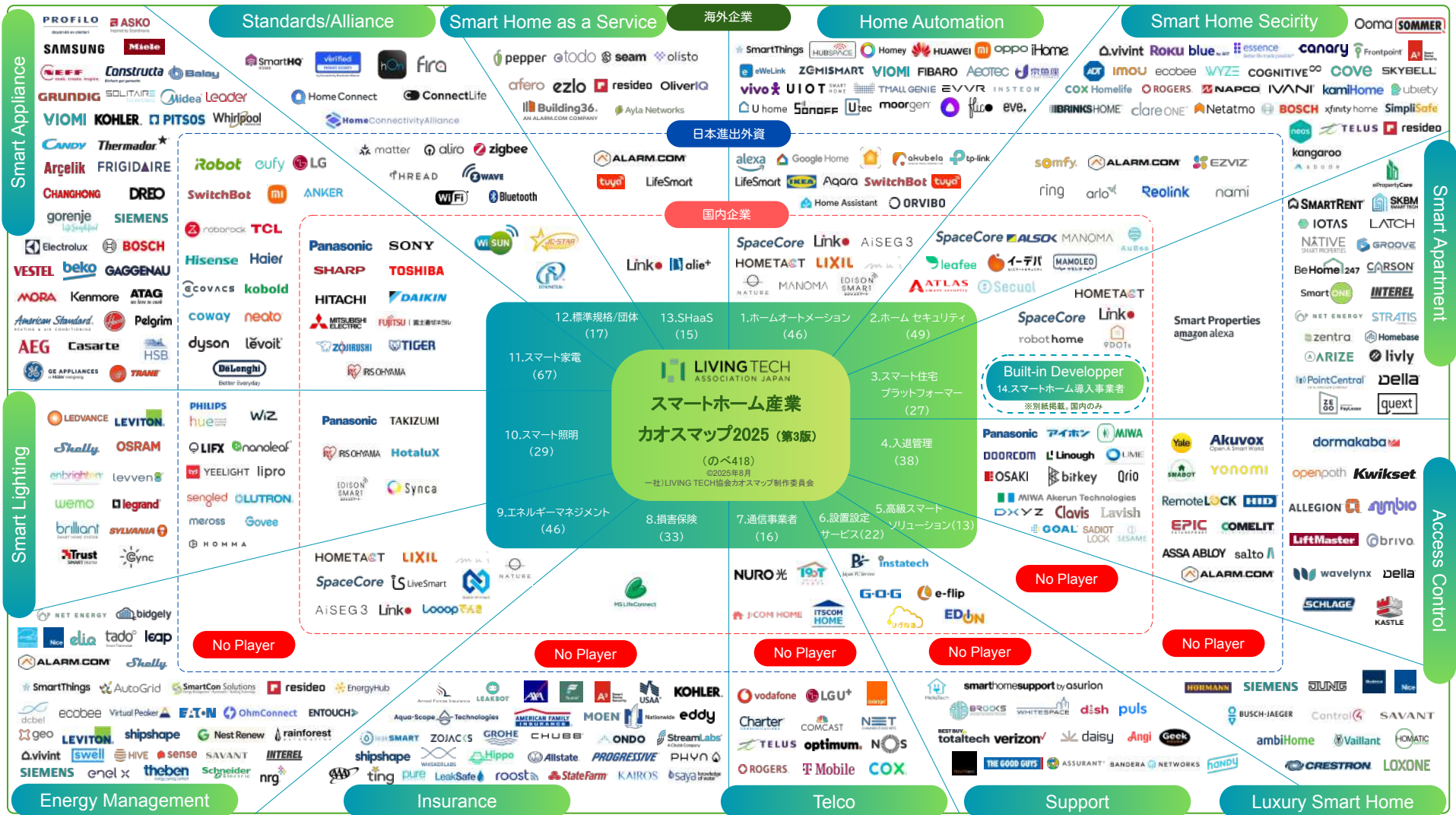




Built-in Developer

14.スマートホーム導入事業者(102)

2015年2月にイッツ・コミュニケーションズが提供開始した「インテリジェントホーム」が国内のB2Bスマートホームサービスの始まり。今では三菱地所のHOMETACT、アクセルラボのSpacecore、LIXILのLifeAssist2、PanasonicのAiSEG3など多くのスマートホームソリューションやHEMSなどが提供されており、海外プラットフォームも日本でサービスインをしている。

戸建⇄集合住宅、賃貸⇄分譲で傾向は若干異なるが、ハウスメーカーは自社開発で標準採用しているケースも多い集合住宅では物件ごとに採用を決めるケースが主流で、一部の集合住宅シリーズでは標準採用も徐々に増えてきている。

管理会社はスマートロックの導入は進んでいるが、最近では顔認証システムの入退館理に加えてスマートホームサービスを導入するケースも。

新築戸建

注文住宅大手を中心に自社ブランドのサービスとして「標準採用」で提供しているプレイヤーが多い。戸建は分譲での採用が主流で、建売や賃貸物件への導入は限定的。



新築集合住宅

集合住宅においては、戸建と異なりホームオートメーションのスマートホームを「標準採用」しているケースは限定的。例示する企業も、分譲（実需・投資）・賃貸ともにシリーズや物件ごとの採用破断が主な導入ケース。また、物件でも一部住戸に限定した導入など試験的な導入事例も。顔認証やスマートロックなどは導入しやすく標準採用しているブランドも増加している。



リフォーム・リノベーション・管理等

リフォーム領域でも一部のプレイヤーが取り組み始めている。一棟リノベ物件での全戸採用事例は殆どない。最近では管理会社主導でスマートホームリフォームを仕掛けたり、古民家やガレージでのスマートホーム採用なども。



※掲載ロゴは企業名で統一しています。各社ホームページやプレスリリース、ニュース記事などをもとに独自編集しており、網羅性・正確性を保証するものではありません。

©2025年8月(社) LIVING TECH協会カオスマップ制作委員会

カテゴリー定義

1 Home Automation (ホームオートメーション)

家庭内の異なるデバイスやシステムを統合し、連携できるプラットフォームを提供するプレイヤー。買い切り&DIY型が多くを占めるカテゴリーだが、日本ではサブスク型プレイヤーもチャレンジしているカテゴリー

2 Smart Home Security (ホームセキュリティ)

もっともビジネスとして成功している王道カテゴリー。単なる防犯対策の枠を超え、自宅や家族、自動車など大切に気になるものをいつでも管理できる安心感に加え、デバイスを追加することでオートメーションなどユースケースの拡大が可能

3 Smart Apartment (スマート住宅プラットフォーム)

スマートデバイスをビルトインする仕組みをプラットフォームとして提供して住宅の価値向上を訴求。先進国では専有部・共用部ともに活用され、物件管理側の課題解決に、仲介・管理では業務効率化やコスト削減に加えて、家賃の値上効果も

4 Access Control (入退管理)

スマートホームのキラーコンテンツ「スマートロック」などの入退室管理基盤をスマートホームのプレイヤーに提供するプレイヤー

5 Luxury Smart Home (高級スマートソリューション)

高級住宅向けの統合スマートホームシステムを提供し、プレミアムな快適性を提供しつつ、AV機器の連携やセキュリティ連携などへの拡張なども可能。プロによる設置設定を前提とし、遠隔でのカスタマイズサービスなども提供している

6 Support (設置設定サービス)

DIYでスマートデバイスの導入を自らできない層(DIFM: Do It For Me)のみならず、住宅供給プレイヤーやスマートホームプラットフォームにも有償でスマートデバイスの設置設定サービスを提供するプレイヤー

7 Telco (通信事業者)

通信サービスがコモディティ化し、マーケットも飽和している中、スマートホームをサービスとして提供することで競合に対して差別化を図りつつ、収益向上や解約抑止策を狙う通信事業者

8 Insurance (損害保険)

スマートデバイスにより漏水検知、防犯対策、火災検知などのリスクを低減することで、利用者側のメリットだけではなく、サービス提供者側(保険会社)側の保険金支払いリスクを低減させることができるWin-Winのビジネスモデル

9 Energy Management (エネルギーマネージメント)

普及するスマートデバイスをインフラとして活用し、エネルギー使用の監視・管理を可能にするレベルから、宅内のエネルギー利用と快適さを最適化するサービス、電力供給グリッドと連携するサービスまで進化する注目のソリューション領域

10 Smart Lighting (スマート照明)

形状も電球、壁スイッチ、テープ、タイルなど様々なタイプが登場し、調光調色ができるものなど様々なスマート照明があり、遠隔管理や他の機器との連動でエネルギー管理、エンターテインメント、ヘルスケア、サーカディアンなどでも利用

11 Smart Appliance (スマート家電)

コネクテッド家電、IoT家電とも呼ばれるネットに繋がる家電を提供する家電メーカー。単に状態監視や遠隔制御ができるものから、他の家電との連携や、メンテナンスサービスが紐付いた家電まで多岐に渡っている

12 Standards/Alliance (標準規格/団体)

スマートホーム技術の標準化や互換性を推進、複数メーカー間でのデバイス連携をサポートする規格/団体。海外の国別ローカル規格は含まない。
2025年6月にZigbeeやMatterを策定するCSAとLIVING TECH協会とで共同マーケティング協定を締結

13 SHaaS =Smart Home As a Service (スマートホームOEM提供)

スマートホームプラットフォームをB2B2CでOEM型提供するSHaaSは、スマートホーム新規参入事業者にプラットフォームを提供することで事業立ち上げの初期費用や運用コストを抑え、参入障壁を下げて業界の発展に一役買っているプレイヤー

14 Built-In Developer (スマートホーム導入事業者) ※別紙掲載

自社開発・OEM(SHaaS)、他社プラットフォームなどを採用した住宅を提供する住宅事業者。国内ハウスメーカーは自社ブランドで標準採用も。集合住宅は物件ごとに採用有無や採用ソリューションが異なる事例が多いが採用事業者は増加傾向に

掲載ガイドライン

掲載ガイドライン

- 単体でネットワークに接続でき、WEBサイトやアプリで管理できる仕組みを持つ、新たな顧客体験を提供していること
- システム連携などにより、製品やサービスがコネクテッド（接続）され、連携・連動することで新たな顧客体験を提供していること
- AI・IoT・クラウドプラットフォーム・センシングなど、現時点において先進的なテクノロジーの活用により新たな顧客体験を提供していること
- API連携などで他メーカーの機器を接続連携することで、新たな顧客体験を提供していること
- 実証実験レベルではなく、サービスとしての実績やある程度まとまった数量が販売されていること
- スマートホームガジェットやIoT住宅設備機器単体は、周辺機器扱いとし、本力オスマップでは掲載しないものとする
（但し、ソリューションとして成立していると当協会が判断した場合は掲載する）

掲載ロゴ・サービス名称・分類について

- プロダクト、サービス、ソリューションの方が理解しやすい場合は、企業ロゴではなく製品/サービスロゴで掲載しています
- 掲載されている企業名および商品・製品・サービス名・ロゴマーク等は、各社の商標または各権利者の登録商標です
- 本力オスマップは当協会が独自で作成したもので、網羅性・正確性を保証するものではありません
- ロゴの大きさや配置の順番等、業界規模やシェアとの関係性はありません
- 本マップ記載のロゴ・サービス名は、各社に掲載許諾を得ていないものもあります
- 掲載に問題がある場合や掲載を取り下げたい場合は、当協会ホームページの「CONTACT」の問い合わせフォームよりご連絡ください
- 本力オスマップに掲載を希望される場合は、当協会ホームページの「CONTACT」の問い合わせフォームよりご連絡ください
内容を確認させていただき、掲載要件を満たしていると当協会が判断する場合、次版での掲載をいたします
（掲載をお約束するものではありませんので予めご了承ください。）